

令和5年度自己評価表（最終評価）

鳥取県立青谷高等学校

長期目標 (学校ビジョン)	～ふるさとキャリア教育 生涯学び続けるために～ 自分らしさに誇りをもち、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成	今年度の 重点目標	1 知を磨く 2 徳を高める 3 健康を育む well-being 4 業務改善の推進	○進路実現100% 生涯にわたって学び続ける力を育成する。 ○ルールを守り、郷土愛や社会の一員としての自覚と使命を育む。 ○ひとり一人が輝き、皆から愛され必要とされる存在を目指す。 ○時間外業務時間縮減を推進する。
----------------------	---	------------------	--	--

評価基準 A：十分達成（95％） B：概ね達成（75％程度） C：変化の兆し（60％程度） D：まだ不十分（40％程度） E：目標・方策の見直し（30％以下）

年 度 当 初					評 価 結 果 （ 2 ） 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 知を磨く	○進路実現100％ 生涯にわたって学び続ける力を育成する。	○昨年度進路実現率98.1％。 ○全年次で平日及び夏季補習を実施。学校推薦型選抜や総合型選抜等、年次を超えて指導することができた。 ○少人数授業やT T、特別支援教育支援員の支援等により、学ぶ意欲が高まった生徒がいる。 ○各種大会、コンクールに参加し、全国での入賞を果たした。 ○「授業で基礎的・基本的な学力が身につけている」と思う生徒は36.5％。【指標①・学⑮】 (R2:24.6％→R3:30.6％→R4:36.5％) ○「授業の予習や復習をしている」と肯定的に思う生徒は57.7％。【指標②・学⑯】 (R2:43.7％→R3:60.0％→R4:57.7％) ○「講演会等が進路や生き方を考えるのに役立っている」と肯定的に思う生徒は約93.6％。【指標③・学⑰】 (R2:82.6％→R3:94.4％→R4:93.6％)	○進路実現100％。勤労観、職業観が育ち、希望進路の実現に向けて努力している。 ○社会が認める力、社会が求める力を育成している。 ・「授業で基礎的・基本的な学力が身につけている」と思う生徒が40％以上。【指標①・学⑮】 ・「授業の予習や復習をしている」と肯定的に思う生徒が65％以上。【指標②・学⑯】 ・「講演会等が進路や生き方を考えるのに役立っている」と肯定的に思う生徒が90％以上。【指標③・学⑰】	○進路、年次及び授業担当者との密な連携。 ○個に応じた適切な指導、支援。 ○ICT活用の推進。 ○青谷学Ⅰ及び青谷学Ⅱの充実。 ○各種検定や各種コンクールへの早期の案内と支援。	○進路実現98％ ○連携を取り、計画的に補習、面談を実施できた。 ○基礎学力の定着を組織的に行うことができた。 ○STEAM Lab.を新設、始動することができた。 ○青谷学Ⅰ・Ⅱの学習を通して協働、情報収集、情報発信力を身につけた。 ○地域コーディネーターの配置により、地域と組織的につながることができた。 ○各種資格、検定への受験者は昨年度並み。 ・「授業で基礎的・基本的な学力が身につけている」と思う生徒が39.3％【指標①・学⑮】 ・「授業の予習や復習をしている」と肯定的に思う生徒が57.8％【指標②・学⑯】 ・「講演会等が進路や生き方を考えるのに役立っている」と肯定的に思う生徒が87.4％【指標③・学⑰】	B	○3年次PTA懇談の早期の実施。 ○STEAM Lab.の積極的な活用。 ○授業改善・工夫のための研修会の実施。 ○2年次「総合的な探究の時間」のカリキュラムの改善。
2 徳を高める	○ルールを守り、郷土愛や社会の一員としての自覚と使命を育む。	○学校行事等で主体的に計画を立てたり、実行したりできる生徒が増えつつある。 ○「学校生活で周囲の人たちとの人間関係は良好」と思う生徒は44.9％。【指標④・学⑱】 (R2:51.3％→R3:55.0％→R4:44.9％) ○「地域や学校外でのボランティア活動に参加した」生徒は54.5％。【指標⑤・学⑳】 (R2:40.4％→R3:48.9％→R4:54.5％)	○相手の立場を意識した行動がとれるようになる。 ○生徒の地域に関する興味関心が高まる。 ○ボランティア活動の推進。 ・「学校生活で周囲の人たちとの人間関係は良好」と思う生徒が60％以上。【指標④・学⑱】 ・「地域や学校外でのボランティア活動に参加した」生徒が60％以上。【指標⑤・学⑳】	○ルールやマナーに対する継続的な声かけ。 ○職員間での情報共有と個々に応じた丁寧な指導、支援。 ○教室のロッカーの活用。 ○人権LHRなど各種講演会の充実や地域との連携。 ○青谷学Ⅰ・Ⅱを通じて地域について学び、地域貢献や交流を図る。	○授業規律や授業態度については、一部生徒に改善の余地あり。 ○講演会等を通じて進路や地域のことを知り、刺激を受けている様子がうかがわれた。 ○各種ボランティアへの参加は一部生徒にとどまった。 ・「学校生活で周囲の人たちとの人間関係は良好」と思う生徒が49.6％【指標④・学⑱】 ・「地域や学校外でのボランティア活動に参加した」生徒が51.9％【指標⑤・学⑳】	C	○引き続き粘り強く指導する。 ○職員間で情報共有をはかり、支援と指導のバランスを取りながらチームとして対応する。 ○ボランティア活動の集約と整理。
3 健康を育む well-being	○ひとり一人が輝き、皆から愛され必要とされる存在を目指す。	○授業規律は概ねよいが、遅刻、欠席の目立つ生徒もいる。 ○健康観察の入力が習慣化できていない生徒がいる。 ○虫歯の治療率は低いが、改善傾向にある。 (R2:21.1％→R3:22.1％→R4:29.2％) ○R5・1月末欠席率3.03％ 遅刻率1.60％。 欠席 (R3:2.71％→R4:2.46％→R5:3.03％) 遅刻 (R3:1.02％→R4:1.00％→R5:1.60％) 【指標⑥】 ○部活動は充実していると肯定的に思う生徒は93.7％。【指標⑦・学㉑】 (R2:79.4％→R3:84.9％→R4:93.7％)	○基本的な生活習慣（時間・挨拶・マナー等）について考えて行動できる。 ○自己の健康の維持増進について関心を持ち、健康状態の向上に努めることができる。 ○生徒会活動、学校行事に生徒が積極的にかかわっている ○部活動の充実。 ・欠席率・遅刻率2％未満。【指標⑥】 ・部活動は充実していると肯定的に思う生徒が90％以上。【指標⑦・学㉑】	○肯定的な声かけと、家庭との連携。 ○生徒会執行部が主体的に企画、運営できるよう支援する。 ○外部人材の活用。 ○公式Instagram、ホームページの活用。	○挨拶を返すことはできるが、自らが自主的に挨拶することのできる生徒は少ない。 ○個別の保健指導に加え、保護者への面談を実施し、意識を高めることができた。 ○執行部が中心となり、学校祭の企画運営を行い、また募金活動、校則の見直し等の協議を行った。 ○部員不足等で活動は低迷しているが、大会出場、作品展出品など満足度を高める活動を継続して行った。 ○公式Instagram、ホームページの更新を積極的に行った。 ・欠席率4.1％・遅刻率2.6％【指標⑥】（1月末） ・部活動は充実していると肯定的に思う生徒が86.2％【指標⑦・学㉑】（加入率56.8％）	C	○日常的な声かけの継続。 ○講演会やガイダンス等をとおして継続して意識づけを行う。
4 業務改善の推進	○時間外業務時間縮減を推進する。	○行事や講演会等が多く行われ、教職員に負担感がある。 ○時間外業務時間の全体平均は少なく、月45時間以上の延べ人数は9人である。【指標⑧】 (R2:延べ1人→R3:0→R4:9人) ○R4年休取得は平均年14.48日。 (R2:12.66日→R3:13.56日→R4:14.48日) 【指標⑨】	○教職員が健康で教育活動が充実。 ・全教職員が、時間外業務時間は月45時間以内、年360時間以内。【指標⑧】 ・教職員の年休取得が平均年15日。【指標⑨】	○管理職による声かけ。 ○毎月の部活動計画及び部活動実績報告。 ○業務日誌等のデジタル化など教育DXを進める。 ○会議資料の事前配付に努める。	・業務日誌のデジタル化の推進により、情報共有、業務縮減につなげた。 ・全教職員が、時間外業務時間は月平均45時間以内、年360時間を超えた職員は1名。【指標⑧】 ・教職員の年休取得が平均年15.53日。【指標⑨】	B	○分掌組織と業務の見直し ○校務のDXの推進。